

# 家の海から

## 白浜で出会ったイソヒヨドリ

48

京都大学助教 久保田 信(京都大学 瀬戸臨海実験所)

### イソヒヨドリは

### トカゲが大好き

イソヒヨドリという鳥を知っているだろうか。名前から分かるように、もともとは沿岸周辺が生息域だった。近年は山間部にも進出して、本宮町川湯でも生息が確認されていると聞く。

北海道から沖縄県にかけて普通にみられるヒタキ科ツグミ亜科の中形の鳥だ。雄は頭から胸、背、腰がきれいな青藍色、おなかはくさり色をしていて、構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

今年9月11日午後3時ごろ、北浜の船着き場に立つ太めの木杭に止まっていた1羽の雄が、約30センチ離れた石積みのでき、すばやい直線的飛行で捕獲するのを目撃した。鳥が虫を食うのは当たり前だが、京都大学瀬戸臨海実験所構内では爬虫(はちゅう)類を捕らえた場面を見掛けた。

## 獲物を叩きつける食事風景

しばらく、イソヒヨドリとトカゲの攻防を眺めた。以前にも構内で爬虫(はちゅう)類が捕獲される現場を

連続の敵しきを目の当たりにした瞬間だった。獲物をアスファルトに打ちつけ始めた。くわえ直して反対の向きにも打ち

つたのだろうか。再び獲物をアスファルトに打ちつけ始めた。くわえ直して反対の向きにも打ち

つける念の入れようだった。この時、ニホンカナヘビの尾が切れた。これだけ打ちつけられたカナヘビはもう完ぺきにグロッキーだろう。その後、尾の切れたカナヘビをくわえて遠くへ飛び去った。以上の2例の爬虫(はちゅう)類の捕獲の目撃記録などは、南紀生物同好会の「くわしお」誌23号(2004年発行)に投稿している。

イソヒヨドリは、このようにトカゲ類を捕まえる他、節足動物のフナムシをついばんだり、飛行する昆虫をフライキャッチしたりするという。さらにかまれると非常に痛いオオムカデ類も捕まえている猛者である。実験所構内では胴体の長いシロウリョウバツも捕まえていた。このような大きなバツやトカゲ類を飲み込む際、のどにつかえないうものだと感心してしま



イソヒヨドリが北浜でニホントカゲを捕らえた現場



民家の近くでよく見掛けるイソヒヨドリの雄(左)と雌(イソヒヨドリは全て日本野鳥の会和歌山県支部津野修一さん撮影)



1998年6月20日にイソヒヨドリの雌によって捕獲され、道路に何度も打ち付けられ、切れたニホンカナヘビの尾



昆虫をくわえて屋根に止まった雌

イソヒヨドリは、秋や冬には、ヒサカキやトベラなどの植物の種子も食べているとのことだ。このように雑食性であり、いわゆる悪食といえよう。しかし、簡単にい

北浜で一番よく見かける鳥は、空を舞うトビである。カラスと空中合戦することたまに見かけるが、なぜかいつも負けている猛禽(もうせん)類だ。カモメ類はほとんどやっつけない。季節によっては、ヒメウが岩礁に群れている。サキ類もたまに岩の上でなにかをねらっているようだ。砂浜には、時折チドリ類が飛来する。このように四季を通じてさまざまな鳥と出会える。ゆっくりと砂浜に腰を下ろし、鳥たちの営みを眺めてみるのも一興。新たな発見があるかもしれない。